

事業報告

教育事業

「ばんだいキッズキャンプ②」



令和3年10月30日(土)、10月31日(日)

【参加者】福島県内の幼児、小学生とその保護者

【場 所】国立磐梯青少年交流の家

○事業趣旨

未就学児を対象に、自然の大きさ、美しさ、不思議さに直接触れる体験を通して、豊かな感性や好奇心、思考力を培うとともに、自然の中で体を動かす楽しさを味わいながら、幼児期に必要な運動能力や体力の基礎を養う。

○活動日程

		6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22		
10月30日 (土)	晴天 荒天						受付	はじまりの会	アイスブレイク	昼食	休憩	こどもの森探検 探検しながら森の不思議を見つけよう	創作活動 木(き)ホルダーづくり	片付け	夕食	休憩	子育てカフェ 早寝早起こはん体験 遊びリンピック	入浴	就寝準備	就寝
10月31日 (日)	晴天 荒天		朝食	準備	こどもの森遊び 体育館遊び (遊具サーキット)			野外炊飯 ホットサンド&スープ作り		終わりの会										

○参加者内訳

対 象	未就学児	小学生	保護者	計
男	0	2	2	6
女	3	2	2	5
合 計	12	8	8	20
家族数				6



○研修トピックス

「こどもの森探検～探検をしながら森の素材を見つけよう」

桜の聖母短期大学の庄子圭吾氏を講師としてお迎えし、参加した家族と一緒にこどもの森を探検した。庄子氏が制作したオリジナルビンゴカード(磐梯 ver)を使って、落ち葉やキノコなどを触った感触や見た感じなど秋の森の中を観察した。参加した家族は、アケビや松ぼっくり、ドングリなどの感触、秋空と紅葉した落ち葉のコントラストなどをビンゴカードと照らし合わせて観察しながら、木(キ)ホルダー作りの素材を採集した。またこどもの森のタイヤや切り株でできたコースで身体のバランスをとりながら遊ぶ姿が多く見られた。

「創作活動 ～木(キ)ホルダー作り～」

家族で協力して丸太の輪切りに挑戦した。各家族に配られたのこぎりで太さ5cm位の丸太を切断した。保護者が手や体で体重をかけて丸太を固定して、子どもたちはのこぎりで輪切りにした。輪切りにした木片を手にとると誇らしげな表情で達成感を言葉で表した。その木片に指導者が穴をあけ紐を通した後、子どもたちは森探検で見つけてきた松ぼっくりやドングリを、ボランティアスタッフに手伝ってもらいながらグルーガンで取り付けて、オリジナルの木(キ)ホルダーを完成させた。

「子育てカフェ」

夫婦で参加された方も別のグループに分かれ焚火の映像を見ながら、「自然体験」というテーマで子育てについての話題を共有していった。親子共々仕事や習い事で忙しい時間を過ごしている中での体験活動の不足、夫婦間の自然体験に対する考え方の相違など、多岐にわたる話題が出た。

「ホットサンド」

家族毎にかまどに焚火を起すことができた。全ての家族の着火はスムーズであった。焚火と調理の時間が十分確保されており、時間をかけながら調理することができた。ホットサンドの用具の取扱いも調理するパンや具材をはさむだけと容易であったので、未就学児でも自分自身で調理し、食事することができた。

○成果と課題○

<成果>

コロナ収束後の教育活動の開催という面でも、参加した家族は自然体験活動の有用性を実感していた。また家族毎に協力して活動を進めた創作活動や調理活動については各家族とも満足度は高かった。豊かな感情や好奇心、思考力を培うとともに、自然の中で体を動かす楽しさを味わえた事業となった。

<課題>

親子参加型の教育事業を望む声もあり、保護者の自然体験不足解消に向け体験活動への垣根を低くする事業の構築も必要かと感じた。